

広島大学スマートシティ共創コンソーシアムが学生とともに描く、
将来の広島大学キャンパス・既成市街地・新市街地
(制作: 広島大学 先進理工系科学研究科 塚村遼也)
表紙: 広島大学キャンパス
P5: 広島大学キャンパス、既成市街地
P6: 新市街地

東広島市次世代学園都市ゾーンの まちづくり



東広島市次世代学園都市ゾーンのまちづくり

令和7（2025）年3月

東広島市総務部政策推進室

〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号

TEL: 082-420-0917 FAX: 082-420-0402

令和7（2025）年3月

東広島市

東広島市のまちづくりの「これまで」と「これから」

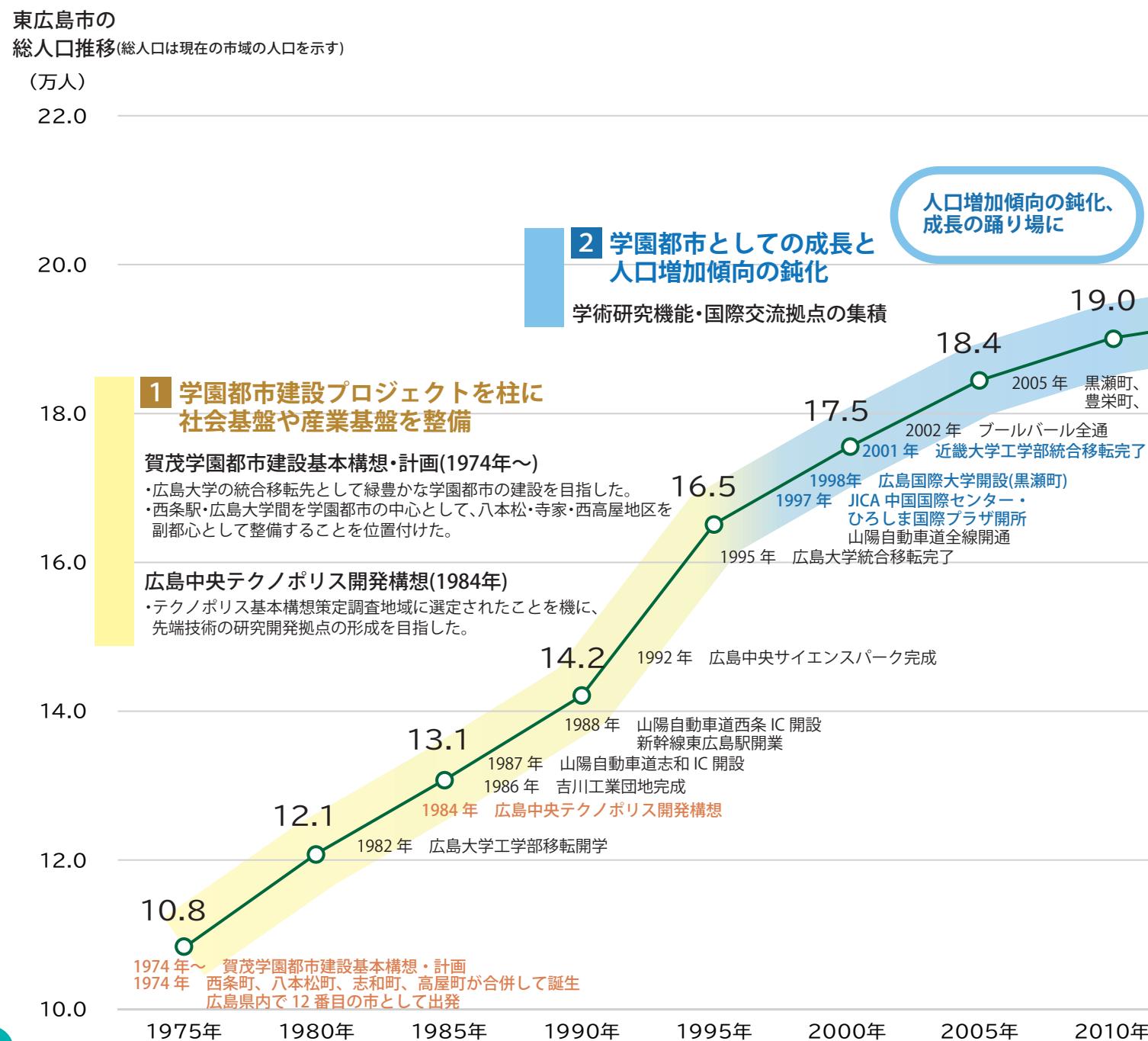
1 東広島市の発展とあゆみ

東広島市は、1974年の誕生以来、長い歴史と伝統、そして、恵まれた自然環境を背景に、「賀茂学園都市建設」及び「広島中央テクノポリス建設」の二大プロジェクトを柱とし、社会基盤や産業基盤の整備を進め、学園都市として成長してきました。

しかし、2010年頃から人口増加の鈍化が見られ始め、魅力的な都市基盤の充実や産業基盤の整備など、まちづくりに関する課題が顕在化しています。

こうした課題の解決に向けて、2020年には大学と連携した「Town & Gown構想」(P2参照)の取り組みを開始し、2022年には50年後、100年後を見据えた新たなまちづくりの方向性や施策をまとめた「東広島市次世代学園都市構想」(P2参照)を策定しました。

3 東広島市の歴史・人口推移



2 Town & Gown 構想によるこれからのまちづくり

東広島市は、世界を舞台とする大学や半導体産業をはじめとするグローバル企業が立地しており、産学官民の連携によるイノベーションが生まれる環境が整っています。これらの知的資源や国際的企業の集積を活かし、大都市を介さずに国内外の企業と直接つながる「ローカルハブ」の機能を持つ「次世代学園都市」を目指しています。

また、2023年には半導体産業への大型投資や国の支援が決まり、今後更なる投資が期待されるとともに、関連産業の集積を進める必要性も高まっています。この追い風を確実に捉え、更なる成長に向けた新たなまちづくりに取り組むことで、2020年の人口19.7万人から約2.3万人の増加を見込み、2050年には22.0万人を目標としています。

次世代学園都市構想の実現と更なる産業規模の拡大を見据え、暮らしや産業を支える都市基盤の充実を図ります。

3 Town & Gown や半導体産業の大型投資を契機とした新たなまちづくりへの着手

Town & Gown構想(2020年～)
東広島市次世代学園都市構想の策定(2022年)
半導体産業への大型投資

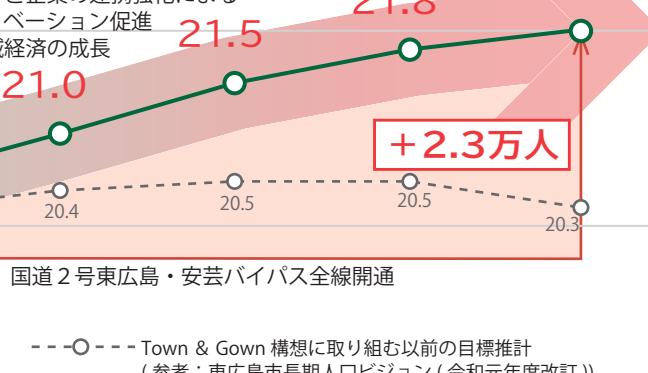
4 次世代学園都市の実現

想定される影響

- ・居住者、通勤者の増加
- ・物流量の増加
- ・大学と企業の連携強化によるイノベーション促進
- ・地域経済の成長

暮らしや産業を支える
都市基盤の充実が必要

+2.3万人



Town & Gown構想

大学と地域、双方の発展により、地域課題の解決と持続可能なまちづくりを目指す構想。

2021年の「東広島市・広島大学Town & Gown Office」の設置を皮切りに、2023年に近畿大学、2024年に広島国際大学にもTown & Gown Officeを設置しました。

市と大学が一体となり、地域社会の課題解決や新たなまちづくりに取り組んでいます。

東広島市次世代学園都市構想

広島大学スマートシティ共創コンソーシアム(P4参照)と共に検討したまちづくりの構想。

期待する将来像(※1)を表現するアイデアを基に、時代の変化に弾力的に対応していく新しい発想で、基本的な方向性や今後の施策などを総合的にまとめたものです。

※1期待する将来像

- ・世界から起業家や研究者が集まるまち
- ・新技術の社会実装と経済の好循環の実現
- ・ゆとりと魅力ある居住環境の実現
- ・適散・適集社会の新たな都市モデルの構築

コラム

半導体産業の動向と戦略

2023年、広島県における先端メモリ半導体生産に関するプロジェクトが、国が支援する4つの大規模産業拠点整備等プロジェクトの1つに選定されました。

更に、2024年には国が示した「AI・半導体産業基盤強化フレーム」において、今後10年間で50兆円を超える官民投資を促進し、半導体生産などによる約160兆円の経済波及効果を目指して、先端・次世代半導体の生産拠点整備などの支援策を進める方針が示されました。

本市の半導体製造拠点では、生成AIや次世代モビリティの重要な技術基盤となる、高速・低消費電力・大容量化に対応する先端メモリの研究開発を推進しています。今後需要が見込まれる生成AI向けの最先端半導体の量産が期待されるとともに、関連企業の集積も進む見込みです。

【取り組み】

- ・広島大学は、日米半導体連携(11大学が参画)に参画することで、多様な半導体人材の養成を推進し、半導体の研究開発を強化しています。
- ・最先端の研究開発と高度人材の育成を目的とした「せとうち半導体コンソーシアム」が設立され、半導体サプライチェーンの構築が進む中で、関連企業の集積が一層促進されることが期待されています。

「次世代学園都市ゾーンのまちづくり」とは

1 「次世代学園都市ゾーンのまちづくり」について

「次世代学園都市ゾーンのまちづくり」は、「東広島市次世代学園都市構想」(P2参照)を実現するため、重点的に取り組む対象エリアを「次世代学園都市ゾーン(※2)」として位置づけ、まちづくりのイメージを共有するものです。「東広島市次世代学園都市構想」では「SDGs」「Well-being」「ポジティブピース」の実現を目指し、カーボンニュートラルやイノベーションの推進、国際的なコミュニティの形成を進め、持続可能で先進性かつ多様性のあるまちづくりを推進します。

SDGs
持続可能な社会の実現を目指すために、2030年までにより良い世界を目指す国際目標。

Well-being
心身ともに健康で、持続的に幸福な状態のこと。一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せを指す。

ポジティブピース
平和な社会をつくり、維持するために必要な態度、制度、仕組みのこと。

「次世代学園都市ゾーンのまちづくり」では、目標人口を基に次世代学園都市ゾーンの将来像や取り組みの方向性を定め、取り組みの効果を高めるために必要となる道路網等交通ネットワークを示します。

2 将来像の年次

東広島市は2024年に市制施行50周年を迎える、それから概ね四半世紀後の2050年の将来像を想定するものです。

3 対象エリア

東広島市総合計画後期基本計画で「次世代学園都市ゾーン(※2)」として位置付けたエリアを対象としています。

※2 次世代学園都市ゾーン

本市と広島大学の連携による地域課題の解決に資する科学技術イノベーションの社会実装と人材育成の先行的実践の場となる「広島大学周辺地区」、半導体を中心とした先端産業が集積する「吉川地区」の2つの特定機能拠点を核とした地域。

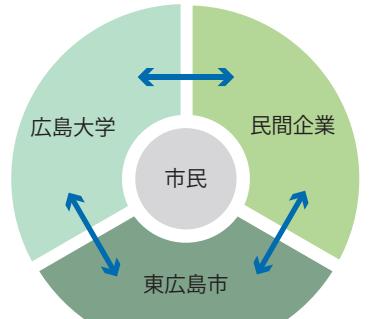


4 「次世代学園都市ゾーンのまちづくり」の方向性

1 体制

Town & Gown

地域と大学のリソースを活用し、企業を巻き込みながら、地域と一体となって、新たなイノベーションの創出や国内外から起業家などをひきつけるまちづくりに取り組みます。



広島大学スマートシティ 共創コンソーシアム

次世代学園都市構想実現の推進母体として、東広島市・広島大学・民間企業により設立。主に広島大学周辺地区的新たなまちづくりに取り組みます。

(産官学民の連携のイメージ図)

2 取り組みの柱

仕組みづくり

イノベーションが起きる 仕組みづくり

～快適性や利便性を含めた
新たな価値の創出～

・イノベーションエコシステム
(※3)の形成による新技術の
社会実装と経済の好循環の実現

・データ活用により効率的な運営
を実現するまち

・最新技術の取り込み

※3 イノベーションエコシステム:
行政、大学、研究機関、企業、金融
機関などの様々なプレーヤーが相
互に連携し、絶え間なくイノベー
ションが創出される、生態系シス
テムのような環境・状態のこと。

環境づくり

グローバルスタンダードな 生活環境づくり

～国際色豊かな魅力ある
都市拠点の形成～

・カーボンニュートラルが
実現したまち

・自然豊かな環境を活かした
ゆとりのある居住空間

・仕事と生活のシームレスな
環境を実現した先端技術のまち

・学生や外国人が定着し、活躍
するまち

・インターナショナルスクールの
誘致

先端産業の集積と 産業基盤づくり

～半導体産業などを中心とし
た新たなビジネスの創出～

・新たなビジネス創出の基盤と
なる産業用地の整備

・市内企業と広島大学の連携強化
による産業イノベーションの
創出

人づくり

～地域全体のグローバルな
頭脳循環への参加～

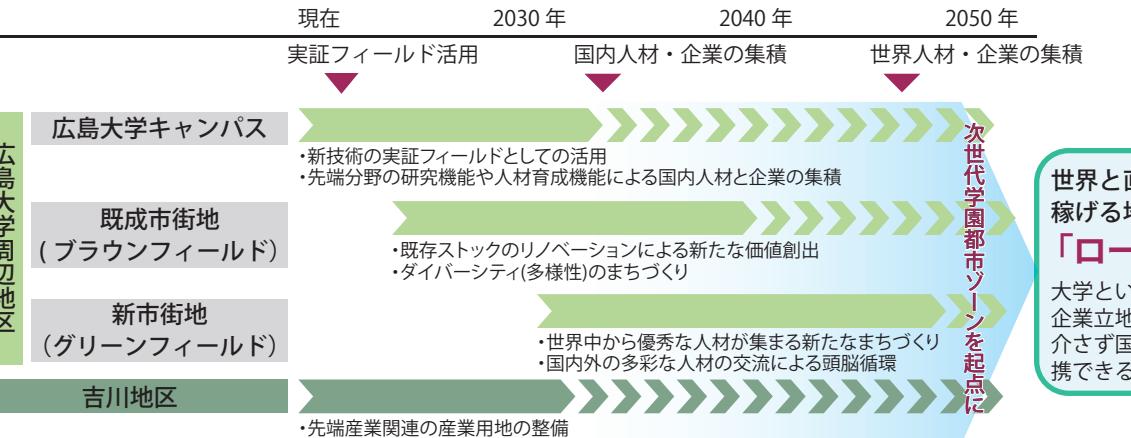
・地域の視点も持つ
「グローカル」(※4)な人材育成
・世界的課題と持続可能な未来が
考えられる人材の育成
・質の高い多様な教育を
受けられるまち

※4 グローカル:
グローバル(世界規模の)とローカル(地域的な)を掛け合わせた造語で、国際的かつ地域視点を持つ考え方。

次世代学園都市ゾーン(広島大学周辺地区・吉川地区)の新たなまちづくり

イノベーションを創造し、世界から起業家や研究者が集まる持続可能で成長するまち

3 まちづくりの成長ステップ



次世代学園都市ゾーンの目指すまちの姿

イノベーションを創造し、世界から起業家や研究者が集まる持続可能で成長するまち

「広島大学周辺地区」と「吉川地区」の異なる特徴を持つ拠点間の連携を強化することにより、「次世代学園都市ゾーン」として一体的なイノベーション環境を創造します。

広島大学周辺地区

広島大学キャンパス

大学と地域の多様な交流と実証実験の場

- ・広島大学の未利用土地を活用し、大学と地域の接点となる新たな機能を検討するとともに、キャンパスをイノベーション創出の拠点とすることを目指します。
- ・広島大学スマートシティ共創コンソーシアムが中心となって、キャンパス内での新技術の実証実験を蓄積し、市街地への展開を目指します。
- ・大学と地域との関係性を深め、研究フィールドの確保、学生の教育機会の創出、地域貢献人材の育成を促進します。
- ・多様な学生・研究者や異なる研究分野の「共創」、地域・産業界との「共創」を促進するイノベーション創造スペースの設置を検討します。
- ・大学と周辺の拠点との連携を促進する公共交通ハブとしての機能強化を図ります。



既成市街地(ブラウンフィールド)

リノベーションによるダイバーシティのまちづくり

- ・既存ストックのリノベーションなどにより、現在の「学生街」から多様な人材が集まるダイバーシティを意識した「大学街」へと進化することで、ニーズに合致する新たな価値を創出します。
- ・産・学・官・民が連携し、環境負荷の低減やエリアの賑わいづくり、交流促進など、ソフト面のまちづくり活動を展開します。
- ・大学生や留学生と企業や地域との交流を促進し、卒業後も定住したくなるまちづくりを目指します。



新市街地(グリーンフィールド)

イノベーションを創出するスマートシティ

- ・次世代学園都市を象徴する近未来型のスマートシティを形成します。
- ・多様な用途、人々が交じり合う高質な都市空間を実現し、世界の若者や研究者(起業家)に選ばれるまちを創造します。
- ・企業の研究開発拠点やオフィスを誘致し、頭脳循環都市を目指します。
- ・次世代の交通体系を導入し、環境負荷が低く、思わず歩きたくなる人を中心としたウォーカブルなまちづくりを行います。
- ・暮らしのサードプレイス(※5)となる自然豊かな都市環境を創出します。
- ・今後増加が見込まれる半導体関連の研究者などの生活拠点として、ゆとりと魅力のある多様な居住環境を創出します。

※5 サードプレイス：家庭や職場以外の居心地の良い場所。



コラム

県内初！

広島大学周辺地域が環境省の「第5回脱炭素先行地域」に選定

脱炭素先行地域とは

2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、先行して脱炭素の取り組みを実施する地域

【取り組み】

- ・2030年までに、太陽光発電設備や蓄電池の導入などにより、下見地区の脱炭素化を目指します。
- ・既存の集合住宅に、太陽光発電設備・蓄電池を組み合わせたエネルギー・マネジメントを実施し、一括受電サービスの提供を目指します。あわせて、空調器や給湯器の更新を行い省エネ化を推進します。
- ・既存の戸建住宅には、太陽光発電設備及び蓄電池のリースサービスを展開します。
- ・東広島運動公園駐車場などの屋外スペースを活用し、太陽光発電設備を導入します。施設の自家消費電力を賄いつつ、余剰電力は既成市街地へ供給します。

吉川地区

半導体を中心とした先端産業の集積

- ・半導体産業の振興を図るため、市営産業団地の整備や、道路などのインフラ環境整備を行います。
- ・半導体サプライチェーンの強靭化に向けた関連産業の集積を図るため、戦略的な企業誘致を行います。
- ・市内企業と広島大学との連携強化により、産業イノベーションを創出するとともに、最先端の半導体技術の研究開発を担う高度人材の育成を推進します。

田園景観と居住環境が共存したまちづくり

- ・半導体産業や関連産業の集積により、外国人を含めて従業者の増加が想定されるため、現在の田園景観を保全しながら、緑豊かなゆとりある居住環境と共存したまちづくりを進めています。



凡例
■ 広島大学キャンパス
■ 既成市街地
■ 新市街地
■ 脱炭素先行地域
■ 市営産業団地候補地
■ 市街地
■ 研究・教育施設
■ 産業団地
■ 農地
■ 山林



「次世代学園都市ゾーンのまちづくり」の方針

1 居住環境の整備に向けた方針

次世代学園都市ゾーンを中心とする都市機能が連携する利便性の高いエリアにおいて、高度利用や低未利用地の有効活用、新規宅地整備などにより、増加する人口の一部の受け皿を確保します。

広島大学周辺地区においては、広島大学キャンパス内の未利用地の開発、既成市街地のリノベーションによるまちづくり、新市街地におけるスマートシティの形成により、グローバル人材から選ばれる居住空間の形成を目指します。

吉川地区においては、田園景観と居住環境が共存したまちづくりを進めています。

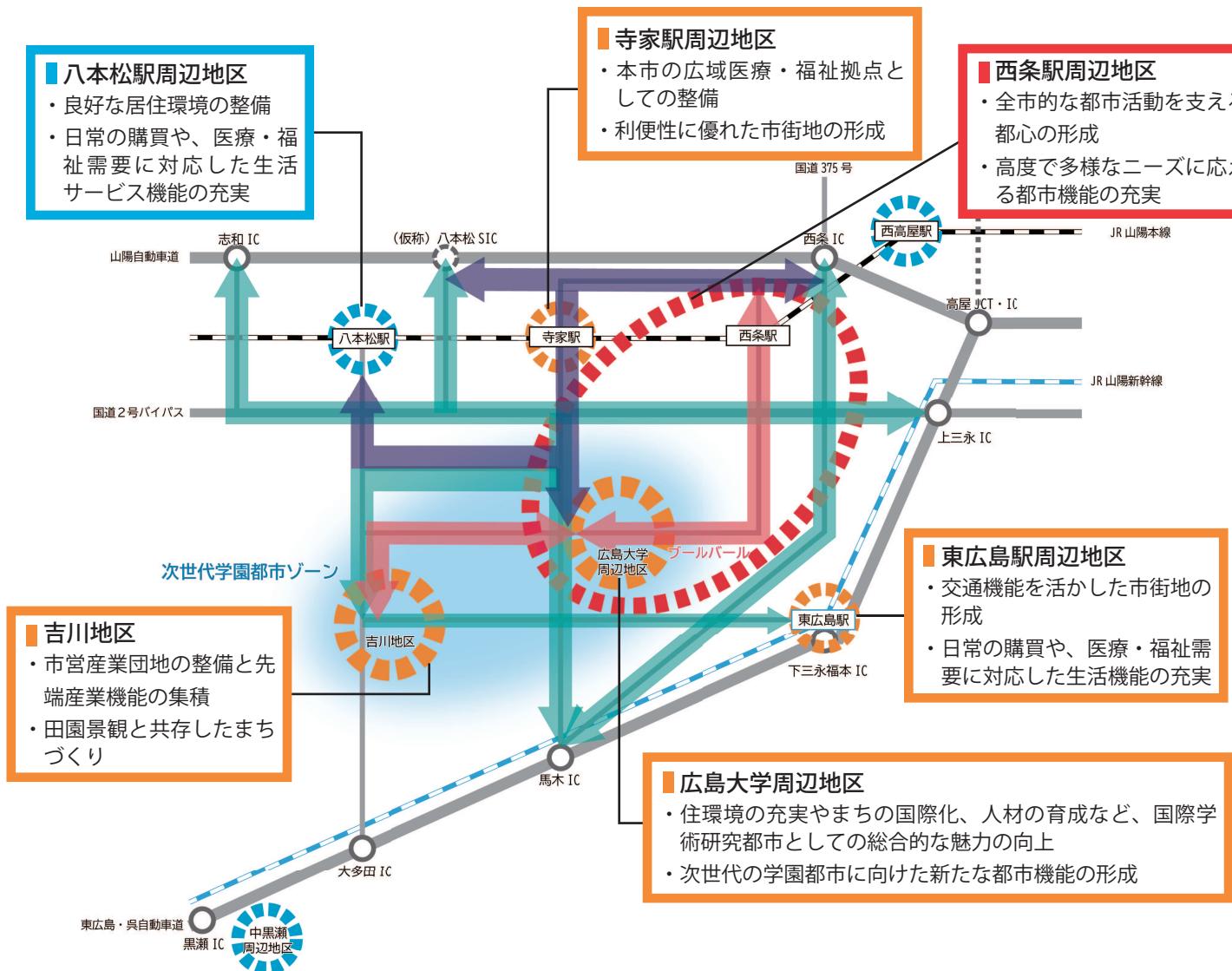
2 産業集積の促進に向けた方針

広島大学周辺地区において、インキュベーション施設の整備や研究開発拠点の誘致を進め、研究者や企業が集まり、先端研究分野を起点とした企業集積や大学発ベンチャー設立に向けた動きを創出します。

先端産業が集積する吉川地区へ新たに市営産業団地を整備し、半導体関連産業をはじめとした先端産業の集積を目指し戦略的な企業誘致を推進します。

また、大学と連携した半導体関連産業などの高度人材の育成や企業の投資促進のための助成など、先端産業の集積に向け、様々な企業支援を実施します。

3 拠点配置と拠点等連携ネットワークの方針



コラム

自動運転・隊列走行BRT導入検討

自動運転・隊列走行BRTとは、従来のバスよりも高度な性能(速達性・定時性・輸送力など)を発揮させ、他の交通機関との接続性を高めるなど、高い利便性を提供するBRT(バス高速輸送システム)に、自動運転と隊列走行の技術を融合した次世代の交通システムです。

【取り組み】

- ・ブルーバルにおける自動運転レベル4(※6)の認可を目指します。
- ・人と環境にやさしく、市民や来訪者の活動や交流の増加に貢献する交通システムの導入を検討します。
- ・今後の社会情勢の変化や事業の進捗状況などに応じ、吉川地区や新幹線東広島駅までの延伸も視野に入れ検討します。



※6 自動運転レベル4：特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態。

ネットワーク

次世代学園都市ネットワーク (西条駅と広島大学周辺地区、吉川地区間)	ブルーバルによる西条駅・広島大学間の連携を吉川地区まで延伸し、多様な人材の交流を促進し、イノベーションの創出を支えるネットワークとして設定します。
産業強化ネットワーク (産業団地と高速道路IC間)	既存の産業団地及び先端産業機能の集積を図る吉川地区から効率的に高速道路ICへのアクセスを可能とし、広域的な経済活動の活性化を支援するネットワークとして設定します。
拠点連携ネットワーク (拠点間)	市街地内の通過交通を抑制するとともに、異なる都市機能を有する拠点間の円滑な連携を支援するネットワークとして設定します。

拠点

都市拠点 高度な都市機能が集積し、全市的な都市活動を支える拠点	西条駅周辺地区
特定機能拠点 専門的機能が集積し、それが有する機能の振興を支える拠点	東広島駅周辺地区、寺家駅周辺地区、広島大学周辺地区、吉川地区
地域拠点 日常生活に必要な都市機能が集積し、地域のにぎわいと交流を支える拠点	八本松駅周辺地区、西高屋駅周辺地区、中黒瀬周辺地区

広島大学周辺地区や吉川地区を中心とした次世代学園都市ゾーンのまちづくりに向け、大学、研究機関、産業団地などへの円滑な人と物の流れを促進する交通ネットワークを構築します。

道路の4車線化や渋滞対策等の道路網の強化を行うとともに、交通結節点整備やバス路線の充実、自動運転・隊列走行BRTなどの新しいモビリティの検討を行い、公共交通の充実を図ります。

